

#### IV 成果の区分・分類

(表1) 部門別の区分

区 分 名	内 容
野菜・花き	野菜・花きの生産性向上、安定供給及び品質改善等に関する試験研究
流通・加工	農林水産物の収穫から消費に至る利用、貯蔵、輸送等に関する試験研究
水田・畑作物	水田作・畑作の生産性向上及び生産物の品質改善等に関する試験研究 (従来型育種、作付体系、機械・作業関係を含む)
作業技術	農業機械の開発改良、省力化、基盤整備に関する試験研究
生産環境	農業生産力の維持・増進を図るための病虫害、土壌肥料、環境管理・保全に関する試験研究
経 営	農業、農村に関する社会経済的環境及びその内部構造変化、地域経済における農業の位置づけ、産地の中核的担い手である先進的経営体の育成、市場の動向、銘柄化の推進、産地診断、流通・販売戦略、地域の土地利用等の調査研究
情報研究	コンピュータ利用、計測法、データベース等に関する試験研究
茶 業	茶の生産性向上及び品質改善等に関する試験研究
果 樹	果樹の生産性向上、果実の安定供給及び品質改善等に関する試験研究
蚕 糸	桑の生産、蚕の飼育に関する試験研究
林 業	林業経営、造林、森林保護、木材加工、茸などの特用林産、林業機械、森林防災等に関する試験研究
畜産・草地	家畜・家さん等の生産性向上及び畜産物の品質改善、草地及び牧草、飼料作物の生産性向上並びに放牧家畜の飼養管理等に関する試験研究
水 産	水産資源、水産増殖、水産工学、水産環境、水産利用加工、水産経済に関する試験研究

(表2) 成果の分類の基準

		主要研究成果の区分	
		普及に移しうる成果 【普及】	その他参考となる成果 【参考】
主要研究成果の種類	【技術】	[対象] 農業者・普及センター・農協・メーカー・消費者・検査機関など [内容] 主に農業上の技術革新に関するもので、生産技術等として普及・活用される成果	
		生産現場において実用的に利用され得る技術等※	今後の発展が見込まれる、有望な素材技術、プロトタイプ等※
	【研究】	[対象] 試験研究機関（独立行政法人・都道府県・民間・大学等）・検査機関・消費者など [内容] 主に科学的な技術・情報に関するもので、学術的に極めて有効な手法・新知見等の成果	
		科学的な新知見、研究の場で広く使われ得る新手法等※	今後の研究発展の基礎となる新知見等※
	【行政】	[対象] 農林水産省・地方農政局等・都道府県（行政部局）など [内容] 主に行政施策の手法に関するもので、行政施策の改善に、極めて有効または参考になる成果	
		政策や事業実施の場で使われ得る企画・立案の手法等※	政策等への参考知見等※

※ [具体例]

【技術】

「普及に移しうる成果（普及）」

◎農業者が営農に直接利用できる成果

- 作物品種
- 栽培法・施肥法・防除法等の生産技術で、現地実証が行われたもの
- マニュアル化された経営計画・管理手法

◎企業が製品化して農業生産現場に普及できる成果

- 生産に移る直前の機械・設備・プログラム等で、メーカー等に技術移転可能なもの（実用新案特許など知的所有権が確保されている）

◎検査機関等で活用される成果

- 動物疾病の診断鑑定など

「その他参考となる成果（参考）」

◎普及技術の核となる成果

- モデル、プロトタイプまでの機械・設備
- 現地実証試験等が行われていないが、技術指導者が生産現場の実情に合わせて利用できる生産技術及び検出・分析手法

## 【研究】

「普及に移しうる成果（普及）」

- ◎研究現場で広く利用される成果
  - 新たな原理・法則・理論
  - 汎用性のある新手法・新知見・新素材
  - 中間母本
- ◎社会に直接貢献する科学的な成果
  - 消費者等に直接影響を与える新知見

「その他参考となる成果（参考）」

- ◎研究を進めるための基礎的な成果
  - 測定方法、分析方法、解析手法、検出法、検定・評価法
  - モデル化手法、予測・推定法
- ◎新しい基礎的知見を与える成果
  - （生命）現象の解明、遺伝子の単離・解析、遺伝分析
- ◎新たな研究素材開発の成果
  - 未知の特殊な研究素材
  - 新たな育種素材

## 【行政】

「普及に移しうる成果（普及）」

- ◎行政の施策・事業を通して農業、農村及び消費者に貢献する成果

「その他参考となる成果（参考）」

- ◎行政施策の参考となる成果